



小嶋 克文 議員

空き家の実態・調査について

問 全国的に空き家の急増が大きな問題になっている。空き家は、地震発生時の倒壊や不審者の侵入など、防災・防犯の面において地域の大きな不安要素になっている。本市の空き家の実態は。

答 「平成20年住宅・土地統計調査」によると、本市の空き家は470軒で、住宅総数の2.8%を占めている。

問 今後の空き家対策についての考えは。

答 高齢化の進展や社会状況の変化によって、増加も懸念されており、市としても対策を強化すべき課題であると認識している。今後は、他市の取り組みを調査するとともに、空き家対策の窓口のあり方や体制も含めて研究していきたい。

小中学校の防災教育について

問 今後の防災教育の取り組み

について。

答 平成28年度完全移行を前倒しして、今年度の後期より小学校5、6年生の総合的な学習時間を活用して、年間35時間程度の防災教育に取り組んでいる。先進校の実践を参考にしながら、各校の実情に合わせた実践を展開してまいりたい。

問 感受性が豊かな中学時代に被災地を訪れることは大変意義があります。中学生の東日本被災地への派遣について。

答 子ども防災リーダー養成講座や防災ネットワークさくそう会の事業と連携を図り、中学校へ有志募集の依頼をさせて頂きたい。

熱さ対策・熱中症対策について

問 部活動等において、熱中症で病院に搬送されたケースは。

答 7月に中学2年生の女子がハンドボールの部活動中に、また、中学3年生の男子が9月の体育大会当日に、それぞれ病院に搬送され熱中症と判断された。

問 熱さ対策・熱中症対策としてミストシャワーの設置を。

答 他市を参考にし、各学校への情報提供を行う。設置に関しては各学校の判断に委ねたい。



鷲見 宗重 議員

防災行政について

問 乞殿ポンプ、中荒井ポンプ運用については、水位差の作動ではなく、住宅側の水位で作動する設定にすべきでは。

答 稗田川の水位が住宅側の水位より低い場合も想定され、そのような状態での運転は、空気を吸い込みキャビテーション（空洞現象）を発生させることとなり、運転を続けた場合、排水ポンプの羽根の破損をすることがあるため避けたほうがよいと業社の意見があった。

問 高浜市も県道の下に太い雨水管を埋めて、遊水池として、活用しては。

答 貯留施設となる大型の雨水管を埋設する場合は、道路への貯留施設への妥当性、道路管理者との構造等を踏まえた協議が必要となる。

また、既に道路に埋設されているガス管、ケーブル管などの占用施設の管理者と協議し移設する場合は、市民生活に支障が

出ないような対策が必要となることやその他にも検討が必要とされることも出てくる。

問 碧海町3丁目についての浸水被害ですが、こちらも深刻との意見があります。県立職業訓練校に遊水池を設置して、いったん、雨水をここに貯めて、浸水被害を軽減すべきでは。

答 土地所有者は愛知県であり、高浜市所有の土地ではないため、難しいと考えられます。また、職業訓練校に遊水池を設置する場合、現在の既設の排水路を遊水池に流入するために排水路のルート変更が必要になるため、排水路のルート替えに膨大な事業費がかかるため、現段階では、難しい。

特定秘密保護法について

問 秘密保護法は1941年の国防保安法に酷似している。

答 市行政として、特定秘密保護法が施行された場合、職員の業務にどんな影響が出るのか。国家公務員を縛る法律で地方公務員の業務には影響はないと思われる。

